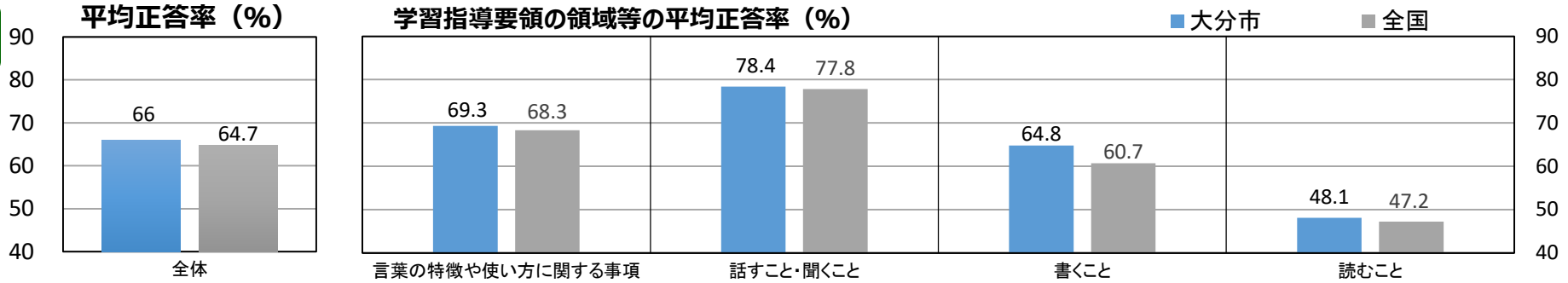


調査結果



分析Ⅰ

話すこと・聞くこと
本調査問題1・2

スピーチで用いた資料の目的について、理解することに課題が見られる。

◆考察◆

スピーチを行う学習では、説明を補足したり、伝えたいことを強調したりするために資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫させることが大切である。指導に当たっては、目的や相手、状況等を踏まえ、タブレット端末を効果的に活用して振り返らせるなど、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方等を考えさせることが必要である。

授業アイデア例

「提案しよう、言葉とわたしたち」(光村図書 5年)

自分の考えが伝わるように、資料を活用してスピーチをしよう

スピーチの原稿を見て、自分の考えを分かりやすく伝えるためには、どのような資料が必要か考えましょう。



タブレット端末で撮影したスピーチの様子を見て、どのようにしたらスピーチがよくなるか話し合ひましょう。

後ろに座っている人にもよく見えるように、資料の文字はもっと大きく、色も変えた方がいいね。



一番伝えたいことが書かれている資料を出すタイミングが早いんじゃないかな。

資料の数をもう一度見直そうよ。少ないと分かりにくいし、多いと読む時間が足りないよ。



疑問に思ったことを、大きく示して、聞き手に一緒に考えてもらってはどうか。

特に伝えたいことの要点をまとめて示したいよ。

難しい言葉の意味を書いて、分かってもらった方がいいよ。



スピーチを改善するためには、話す様子をタブレット端末で撮影したり、友だちに見てもらったりするなど、客観的に振り返り検討することが大切です。



分析Ⅱ

読むこと
本調査問題2・4

内容の中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られる。

◆考察◆

説明的な文章を要約する学習では、文章全体の内容を正確に把握させた上で、構成や表現をそのまま生かしたり、自分の言葉を用いたりしながら、内容を簡潔にまとめさせることが大切である。指導に当たっては、内容の中心となる言葉や文を見付けさせ、思考ツールやタブレット端末等を活用し、大事な言葉や文を選び、要約の分量を考え表現させる学習活動が考えられる。

授業アイデア例

筆者の考えをとらえ、要約しよう

「面ファスナー」(本調査問題)



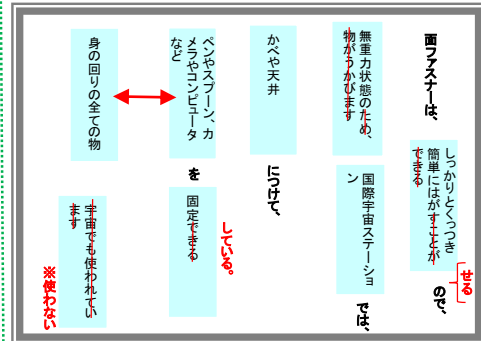
5段落は、面ファスナーが宇宙でも使われていることについて書かれています。大事な言葉や文を見付け、要約しましょう。

⑤「また、じかりとくまき器には、はがすことができない面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井にはあらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ペンやスクリュー、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようにしています。」

線を引いた言葉や文を付箋に書かせる。

- 固定できる
- 身の回りの全ての物
- ペンやスクリュー、カメラなど
- かべや天井
- 無重力状態のため、物がうかびます
- 国際宇宙ステーション
- 宇宙でも使われています
- じかりとくまき器には、はがすことができない
- 宇宙でも使われています

ホワイトボード上で、付箋を並べ替えたり、言葉を省いたりしながら、80字以内に要約させる。



80字以内にするためには、「身の回りの全ての物」にした方がよさそうだ。

中には、要約が長文になってしまう子どももいます。字数を制限したり、必ず入れる言葉を指定したりするなど、条件を提示するといいですね。

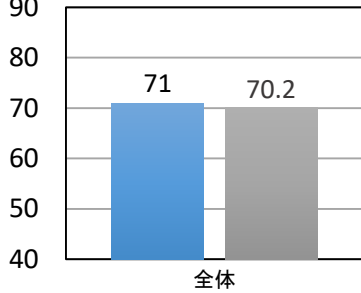


学習活動の中で、タブレット端末（ロイロノート・スクール）を活用することもできます。

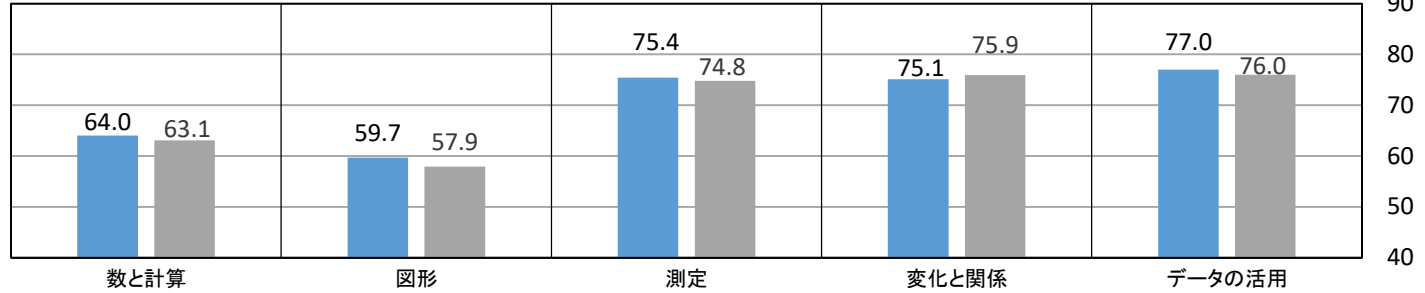


調査結果

平均正答率（％）



学習指導要領の領域等の平均正答率（％）



分析Ⅰ
図形

本調査問題2(2)

複数の図形を組み合わせた面積について、量の保存性や加法性を基にして考えることに課題が見られる。

◆考察◆

図形の面積の学習では、ある図形を分割して並べ替えても面積が変わらないという量の保存性や、二つの図形を組み合わせた図形の面積はそれぞれの面積の和になるという量の加法性といった基本的な性質を理解し、活用できるようにさせることが大切である。指導に当たっては、長方形の場合、対角線で分割して直角三角形の面積を求めたり、複数の直角三角形を並べ替えて等しい面積の図形を見つけたりする活動を設定することが考えられる。

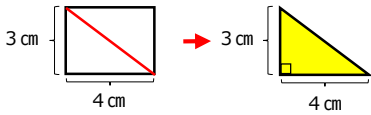
授業アイデア例



公式を用いるだけでなく、マス目を数える、変形してから面積を求めるなど、様々な方法で面積を求める場を設定しましょう。

【問題1】

長方形に対角線を引き、三角形をつりました。



この三角形にはどんな特徴がありますか。

直角三角形です。

もとの長方形の半分です。

これらの特徴を生かして、この三角形の面積を求めてみましょう。

① 長方形の面積は $3 \times 4 = 12$ で 12 cm^2 だね。

② $12 \div 2 = 6$ で、直角三角形の面積は 6 cm^2 だね。

【問題2】

問題1の直角三角形を4つなげて長方形をつりました。面積はどれだけでしょうか。



① 縦と横の長さを求めて、長方形の公式で求めます。縦の長さは4cm、横の長さ $3 \times 2 = 6$ で 6 cm です。式は $4 \times 6 = 24$ で答えは 24 cm^2 です。

② 直角三角形の面積は 6 cm^2 と分かっているので、その4つ分と考えます。式は $6 \times 4 = 24$ で答えは 24 cm^2 です。

③ ②の方法なら、面積を求める公式を使わずにできるね。

【問題3】

問題1の直角三角形で、問題2と等しい 24 cm^2 の図形をつくりましょう。

どんな図形があるか、グループで話し合みましょう。

② 問題2と同じように4つ分にすれば…

① 向きを変えても面積は変わらないから…

③ ひし形ができたよ。他の形もできそうだね。

分析Ⅱ
数と計算

本調査問題4(3)

小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して考え、言葉や数を用いて説明することに課題が見られる。

◆考察◆

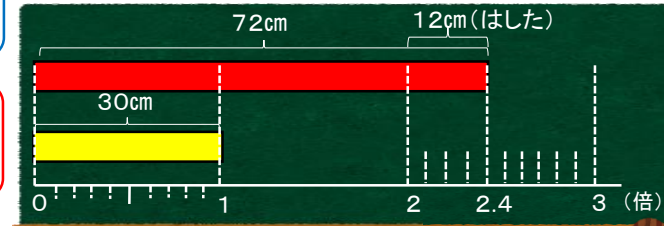
小数を用いた倍の意味を考える学習では、「幾つ分」と捉えてきた整数を用いた倍の意味を、「基準量を1とすると、比較量は幾つに当たる」という意味に発展させていくことが大切である。指導に当たっては、1を10等分した「0.1に当たる大きさ」を捉えさせるために、図を基にしてどれだけに当たるかを考えたり、目盛をかき込んで説明したりする活動が必要である。

授業アイデア例

【問題】

72cmの赤いテープは30cmの黄色いテープの何倍ですか。

2本のテープを並べて図に表しました。この図を手掛かりに考えましょう。



72 ÷ 30 = 2あまり12だね。図にもあるけど、はしたの12cmをどう表せばいいかな。

はしたの12cmは、30cmを1としたときに幾つに当たるか、図を基に話し合みましょう。

① 30cmが1に当たるから、10等分した0.1の大きさで考えたらどうかね。

③ $12 \div 3 = 4$ だから、12cmは0.1の4つ分で、0.4倍だね。

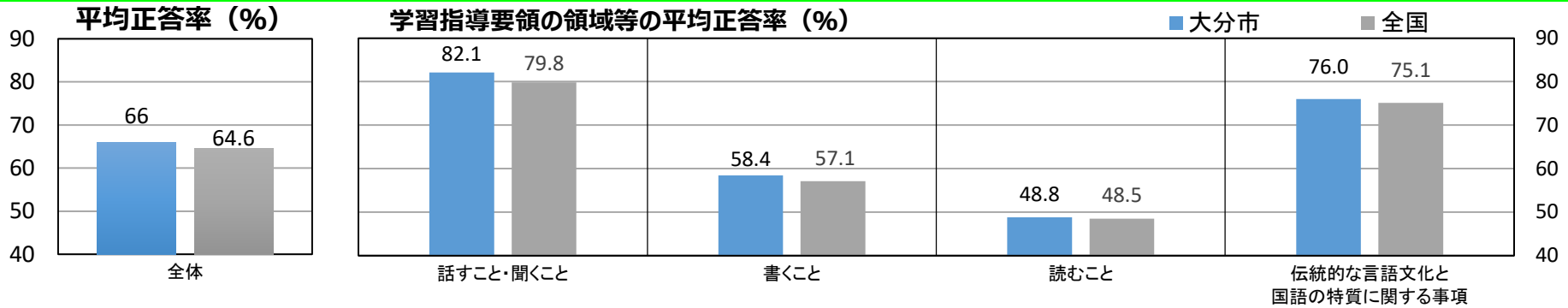
② 0.1にあたる長さは $30 \div 10 = 3$ cmだね。

④ 30cmを1としたときに72cmは2.4に当たるから、72cmは30cmの2.4倍だね。

2年生の「倍」の学習から、テープ図等を用いて考えたり説明したりする経験を重ねていくことが、2つの数量の関係について考える力を育成することにつながります。

【振り返り】
長さの学習で1cmを10等分して1mmにしたことや、小数の学習で1を10等分して0.1をつつたのと似ているね。図にすると、0.1倍の意味がよく分かりました。

調査結果



分析Ⅰ
読むこと

本調査問題3 四

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題が見られる。

◆考察◆

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ学習では、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明させたり、他者の考えやその根拠などを知らせたりすることが大切である。指導に当たっては、比較読みによって文章に表れている考えをしっかりと捉えさせ、自分の考えをもたせる学習活動等が考えられる。

授業アイデア例

言語活動：それぞれの筆者の考えの共通点を捉えるために、本文と芥川龍之介の「桃太郎」を比較読みし、共通する筆者の考えを踏まえて意見文を書く

第一次

- 単元の見直しをもつ。
- 「作られた『物語』を超えて」を読み、初発の感想を書く。

第二次

- 思考ツール（フィッシュボーン）を使って、本文の論理の展開をまとめる。
- 本文と芥川龍之介の「桃太郎」を比較読みする。（本時）
- それぞれの作品の立場の言い分をセリフとしてまとめ、共通点を考えることから、筆者の考えを捉える。

第三次

- 筆者の考えを踏まえて、意見文を書く。
- 意見文を交流し、気付いたことを伝え合う。

共通点	桃太郎(芥川)	作られた『物語』を超えて	課題
立場で受けた	先入観や偏見を受けたり	鬼は、悪いことをしたに違いないのやうな	二つの文章にある共通する筆者の考えは何だろうか
狭い視野での考え	鬼は、悪いことをしたに違いないのやうな	鬼は、悪いことをしたに違いないのやうな	めあて
	鬼は、悪いことをしたに違いないのやうな	鬼は、悪いことをしたに違いないのやうな	筆者の考えを踏まえて意見文を書く

○山樺寿一
○芥川龍之介
○作られた「物語」を超えて「桃太郎」

「ゴリラ」「人間」「桃太郎」

登場人物の言い分をセリフとしてまとめましょう。そのセリフから、それぞれの立場としての共通点を考えてみましょう。

登場人物のセリフを考えると、受け止め方が立場によって違うことが分かるね。

2つの作品を読み比べて、「ゴリラ」と「鬼」、「人間」と「桃太郎」の共通点が見出せるね。それが2人の筆者の考えにもつながっているんだね。

比較読みを行うことで、筆者のものの見方や考え方を、より明確に捉えることができます。第三次では、筆者の考えに対して自分の知識や経験と結び付けながら、他者に説明したり他者の考えを知ったりすることで自分の考えを深めましょう。

分析Ⅱ
書くこと

本調査問題4 四

伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことに課題が見られる。

◆考察◆

伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことの学習では、表現の工夫を考えて描写させることが大切である。指導に当たっては、その語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えさせるために、ワークシート等を活用し、より効果的な語句や表現を選んで描写させることが必要である。

授業アイデア例

言語活動：職場体験学習のお礼状を書く

第一次

- 単元の見直しをもち、手紙の一般的な形式（構成や要素）を理解する。

第二次

- お礼の手紙に書く内容について材料を集め、付箋紙と組み立てシートを使って書く順序を個で考える。考えたものをタブレット端末で撮影しておく。
- 書く順序やより効果的な表現の工夫について、組み立てシートを使ってグループで考える。（本時）

第三次

- お礼の気持ちが伝わる手紙を下書きする。
- 手紙の下書きについてグループで評価し合い、付加、修正する。
- 手紙を清書き、封筒の表書きと裏書きを書く。
- 単元の振り返りをする。タブレット端末で撮影したものと組み立てシートを見比べ、考えの深まりを実感させる。

職場体験でお世話になった方という相手意識をもって、伝えたい内容、順序、表現について、グループで見直しましょう。

組立てシート

手紙の大まかな構成や要素

この順序にした理由を書こう

この体験で学んだ「自分から考えたいことを効果的に伝えるように、3つ目のエピソードはもっと長くしたほうがよい…」

・他者からのアドバイス

・読み手を意識した表現の工夫
正しい敬語を使うこと、より伝わりやすいように比喩を使った表現をすること…

伝えたい内容適切な根拠の選択

誰に（〇〇電器の△さん）
何のために（感謝を伝えるため）
どのように（感謝を伝えるための体験で多くの学びを得たことに対する感謝）

自分から伝えたい内容を大まかに書く

大切さの順番

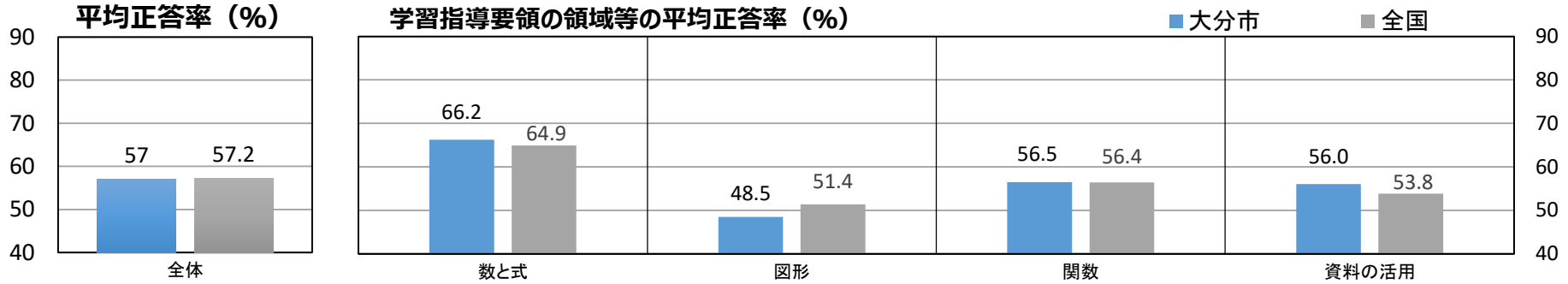
大切さの順番

大切さの順番

グループで話し合っ、書く順序を変えたり、内容を見直し整理したりすることによって、一人で考えたものに比べて、伝えたいことがはっきりしたね。

表現の工夫について考え、組み立てシートに貼った付箋を比較、検討しながら貼りかえることで、より効果的な表現につなげることができます。

調査結果



分析Ⅰ
数と式

本調査問題6(2)

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することについて課題が見られる。

◆考察◆

数に関する事象を考察する場面では、ある事柄が成り立つ理由を数学的に説明させることが大切である。指導に当たっては、具体的な事象の中に、成り立つ性質を見いださせ、それを文字を用いて式に表現させたり、式の意味を説明させたりするなどの活動を取り入れることが必要である。

分析Ⅱ
図形

本調査問題9(1)

平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になるための理由を説明することについて課題が見られる。

◆考察◆

図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つ理由を筋道立てて考えさせることが大切である。指導に当たっては、辺の長さや角の大きさ等に注目させ、既習事項である図形の性質等を用いて、論理的に考察し説明させることが必要である。

授業アイデア例

課題 いつも4の倍数といえるのだろうか。

問題

右の図のように、自然数を5つずつに区切った表がある。赤で囲んだ四角のように4つの数を囲むとき、4つの数の和に共通することは、何だろうか。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35

左上の数を n とすると、右上の数は $n+1$ 、左下の数は $n+5$ 、右下の数は $n+6$ と表せる。
4つの数の和は
 $n+(n+1)+(n+5)+(n+6)$
 $=4n+12$
 $=4(n+3)$
 $n+3$ は整数だから、 $4(n+3)$ は **4の倍数** である

グループで話し合うときは、4つの数の和の共通点を手がかりに一般性を考えさせることが大切です。さらに、家庭学習において、6つずつに区切った表についての性質などを考えさせると、より発展的に考察する力の育成につながります。



① 4つの数の和はそれぞれ16、48、100、全部偶数だね。きっと偶数になるんだよ。

② 本当だ。でも、よく見ると、 $16=4 \times 4$
 $48=4 \times 12$ 、 $100=4 \times 25$
だから、4の倍数じゃないかな。

③ いつも4の倍数といえるのかな。他のものを確かめてみよう。

④ いつも4の倍数というためには、どうすればよかったかな。

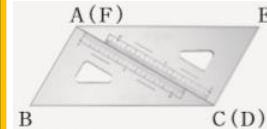
⑤ どんなときでもいえるためには、文字式を使って説明していたよね。だから、この場合は、左上の数を n とすると、右上の数を $n+1$ 、左下の数を $n+5$ 、右下の数を $n+6$ と表せるよ。これを全部たせばいいんだよ。

授業アイデア例

課題 四角形 $ABCE$ は平行四辺形といえるのだろうか。

問題

30° 、 60° 、 90° の同じ三角定規を2つ用意し、それぞれ $\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ とする。太郎さんと花子さんは、2つの三角定規を下図のように、点 A と点 F 、点 C と点 D が重なるように並べた。このとき、四角形 $ABCE$ は、どんな四角形といえるだろうか。



【辺の長さに注目した場合】

$\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は合同だから
 $AB=CE \dots \textcircled{1}$
 $BC=EA \dots \textcircled{2}$
①、②より、
2組の対辺がそれぞれ等しいので

【角の大きさに注目した場合】

$\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は合同だから
 $\angle B = \angle E \dots \textcircled{1}$
 $\angle ACB = \angle CAE$
 $\angle BAE = 90^\circ + \angle CAE$
 $\angle ECB = 90^\circ + \angle ACB$
よって、 $\angle BAE = \angle ECB \dots \textcircled{2}$
①、②より、
2組の対角がそれぞれ等しいので

平行四辺形になる条件の適用には、辺の長さや角の大きさが等しいことなどを、問題文や図から見つけさせることが大切です。



① 見た感じが平行四辺形だと思うんだけどなあ。

② 平行四辺形というためには、証明しないといけないよ。平行四辺形の条件に当てはまればいいんだよ。

④ 合同な三角定規だから、対辺の長さは等しいよね。辺に注目して証明してみよう。

③ 平行四辺形の条件は5つあったよね。この問題の場合、どの条件が使えるかな。また、どこに注目したらいいかな。

⑤ 対角の大きさが等しいといえたら、平行四辺形といえるよね。角の大きさに注目して証明してみよう。

○関心・意欲・態度(国語、算数) 【児童質問紙 質問番号:43・45・52・54】

国語について、「好きですか」、「授業の内容がよく分かりますか」、算数について、「好きですか」、「授業の内容がよく分かりますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は、60.4%、87.1%、85.9%、67.3%と概ね全国平均となっている。今後とも児童が学習に興味関心のもてる教材の工夫や授業づくりの改善を行うとともに、習熟度別指導や少人数指導、個別指導等、個に応じた指導の一層の充実が必要である。

○学習時間等 【児童質問紙 質問番号:17・18・21】

家庭での平日の学習時間は、全国平均を5.4%上回っている(平日2時間以上32.3%)。計画を立てて勉強している児童の割合は78.3%であり、全国平均を4.3%上回っている。また、読書について、授業時間以外の読書時間は、全国平均を上回っているが、20.0%が読書を「全くない」と回答していることから、引き続き、学校図書館等を活用し、読書の楽しさを伝えることが必要である。

○学校生活 【児童質問紙 質問番号:13・16】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は86.4%と高く、全国平均と同等である。また、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は93.7%と高く、概ね全国平均となっており、学校生活の充実が窺える。今後、学校行事等への取組に向けて、学級活動の充実に努めることが、より一層必要である。

○基本的な生活習慣、社会に対する興味・関心 【児童質問紙 質問番号:2・3・25】

基本的な生活習慣については、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は92.5%と全国平均の90.4%を上回っており、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対しても、肯定的に回答した児童の割合は83.4%と全国平均の81.2%を上回っている。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に対しても、肯定的に回答した児童の割合は54.6%と全国平均の52.4%を上回っており、児童の地域社会に対する期待感も高まっていることが窺える。今後、学校、家庭、地域社会が一層連携・協力して、子どもの基本的な生活習慣の確立に努めることが必要である。

○自尊感情、規範意識 【児童質問紙 質問番号:4・6・7・11】

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は77.1%、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、80.4%と概ね全国平均となっている。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は70.4%と概ね全国平均となっている。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対しては、97.5%であり、概ね全国平均となっている。今後とも学校・家庭・地域社会の連携を図りつつ、道徳教育に係る学校や学年の段階ごとの指導の重点の明確化、教材の充実、体験活動の推進など、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて豊かな人間性や社会性を育む道徳教育の一層の充実に努めることが必要である。

○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくり 【児童質問紙 質問番号:33・37】

「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は77.9%と概ね全国平均となっており、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は75.6%と全国平均の78.8%を下回っている。今後は、質の高い授業の創造に向け、本市作成の授業力向上ハンドブック等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めることが必要である。

○校種間連携、社会に開かれた教育課程 【学校質問紙 質問番号:77・78・79・81】

小学校と中学校の連携について、「前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか」の質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は76.4%と全国平均の57.4%を大きく上回っており、同様に、教育課程における目標設定等の共通の取組や全国学力・学習状況調査の成果や課題等の分析結果の共有についての質問も全国平均を大きく上回っていることから、小中一貫教育の取組の成果が表れている。今後、子どもたちの心身の発達や生徒指導上の諸問題、学力形成上の特質の違い等による小中の段差の軽減を図り、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく育成し「生きる力」を育む上から、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育の推進を図る必要がある。また、「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」の質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は81.8%と全国平均の85.7%を下回っていることから、より一層「社会に開かれた教育課程」の実現に努めることが必要である。

○新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業期間中の生活 【児童質問紙 質問番号:65・66】

「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は67.0%と全国平均の64.6%を上回っている。また、「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は64.8%と全国平均の63.1%を上回っている。今後は、臨時休業等において、オンラインによる学習指導を行うなど、児童一人一人の「学びの保障」に努めることが必要である。

○関心・意欲・態度（国語、数学、英語） 【生徒質問紙 質問番号：43・45・52・54・61】

国語、数学、英語の各教科について、「好きですか」の質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は国語と数学においては全国平均を下回っているが、英語は全国平均を上回っている。「授業の内容がよく分かりますか」の質問に対し、肯定的に回答した生徒の割合は国語、数学ともに全国平均を下回っている。今後は生徒が各教科の学習に興味関心のもてる教材の工夫や授業の改善を行うとともに、習熟度別指導や少人数指導、個別指導等、個に応じた指導の充実が必要である。

○学習時間等 【生徒質問紙 質問番号：17・18・21】

家庭での平日の学習時間は、全国平均を大きく上回っている（平日2時間以上が56.8%）。計画を立てて勉強している生徒の割合は62.5%であり、全国平均を1%下回っている。また、読書について、授業時間以外の読書時間は、概ね全国平均であるが、37.4%が「全くしない」と回答している。全国平均より7.3%下回っているため、引き続き、学校図書館等を活用し、読書の楽しさを伝えることが必要である。

○学校生活 【生徒質問紙 質問番号：13・16】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は81.6%、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は93.5%と概ね全国平均となっており、学校生活の充実が窺える。今後も、学校行事等への取組に向けて、学級活動の充実に努めることが、より一層必要である。

○基本的な生活習慣、社会に対する興味・関心 【生徒質問紙 質問番号：2・3・25】

基本的な生活習慣については、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は80.4%、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合93.2%と概ね全国平均となっている。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか」という質問に対しては、肯定的な回答をした生徒の割合は46.6%と全国平均の43.8%を上回っている。今後も、学校、家庭、地域社会が一層連携・協力して、子どもの基本的な生活習慣の確立及び社会に対する興味・関心の向上に努めることが必要である。

○自尊感情、規範意識 【生徒質問紙 質問番号：4・6・7・11】

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は77.1%と、全国平均の76.2%を上回っている。「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は69.0%と概ね全国平均となっている。「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は、それぞれ67.8%、96.7%と概ね全国平均となっている。今後とも学校・家庭・地域社会の連携を図りつつ、道徳教育に係る学校や学年の段階ごとの指導の重点の明確化、教材の充実、体験活動の推進など、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて豊かな人間性や社会性を育む道徳教育の一層の充実に努めることが必要である。

○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくり 【生徒質問紙 質問番号：33・37】

「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は79.9%と全国平均の81.0%を下回っている。「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は79.1%と全国平均の77.8%を上回っている。今後は、質の高い授業の創造に向け、本市作成の授業力向上ハンドブック等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めることが必要である。

○校種間連携、社会に開かれた教育課程 【学校質問紙 質問番号：77・78・79・81】

小学校と中学校の連携について、「前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか」の質問に対して、肯定的な回答をした学校の割合は92.8%と全国平均の65.1%を大きく上回っている。同様に、教育課程における目標設定等の共通の取組や全国学力・学習状況調査の成果や課題等の分析結果の共有についての質問も全国平均を大きく上回っていることから、小中一貫教育の取組の成果が確実に表れている。今後とも、子どもたちの心身の発達や生徒指導上の諸問題、学力形成上の特質の違い等による小中の段差の軽減を図り、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく育成し「生きる力」を育む上から、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行う小中一貫教育の推進を図る必要がある。また、「教育課程の趣旨について、家族や地域との共有を図る取組を行っていますか」の質問では、全国平均の87.2%に対し、本市は82.1%と約5%下回っていることから、より一層「社会に開かれた教育課程」の実現に努めることが必要である。

○新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業期間中の生活 【生徒質問紙 質問番号：65・66】

「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は全国平均37.6%に対し、本市は、34.1%、「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は全国平均48.4%に対し、本市は46.5%と2つの質問とも全国平均を下回っている。今後は、臨時休業等において、オンラインによる学習指導を行うなど、生徒一人一人の「学びの保障」に努めることが必要である。